

憲法改悪への強権政治を ストップさせよう

憲法と国民の生活を守る 運動を大きく盛り上げよう

佐織未来を

ひらく会総会

6月3日午後愛西市佐織公民館にて佐織未来をひらく会が総会を開きました。

最初に深井代表世話人から「自公政権の中で建設業者が大変苦勞している。『談合』批判が強くなり、

今までも
そつであつ
たがそれ
以上我々
中小の業
者に仕事がない。非常に困っている」と切実な現状を訴え



「このような政治は早く変えなければならぬ」と開会の挨拶がありました。来賓の方々から「憲法改悪への強権政治が」「国民負担はますます強くなっている」「参議院選挙があり、みんなの手で変えましよう」などとの激励の挨拶を受け

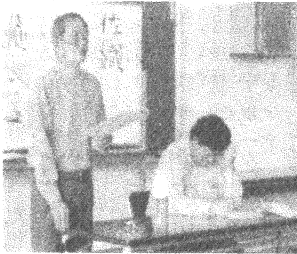
ました。

続いて活動報告があり「この一年は、憲法改悪反対街頭宣伝署名行動9回、署名は792筆。宗教者・医師・町政功労者の方々へ「九条の会呼びかけ」に賛同

を求める活動。地域の新聞、TVも関心を持ってくれた「八月の集いで『お釈迦様の教えと平和』と題しての講演とすいとん試食会など取りくんできた」と報告がありました。今年度の方針は「昨年の活動に学びつつ憲法と国民の生活を守る活動に取りくむ」と提案。つづいて、革新愛知の

会村上事務室長から「憲法改悪の動きと私達の課題」と題して問題提起があり(内容

は二面に掲載)、質疑、討論の後拍手で採択し閉会しました。



主張

住民大増税のからくり

6月住民税が大幅負担増になりました。サラリーマンは6月給与で、他の人は住民税納付通知で確認できます。何倍にもなった住民税に市民税課には一日100件もの問い合わせが。ますます増える負担に怒りが込み上げます。なぜこんなことに……。

一番の原因は、国から地方への税源移譲。所得税を減額し、住民税を増やしました。国は盛んに「所得税と住民税の総額は変わりません」と弁明。

でも、だまされてはいけません。所得税・住民税の定率減税廃止分が隠れています。その額一兆七千億円!大増税です。定率減税は昨年半減、今年は全廃。その流れを作ったのは、公明党。年金国庫負担を1/3から1/2へ引き上げる財源だと03年の総選挙で公約し、小泉自公政権が廃止しました。でも、年金財源に回ったのはたったの2割。

こんなのは許せません!7月は参議院選挙。この怒りを一票に!

村上事務室長の

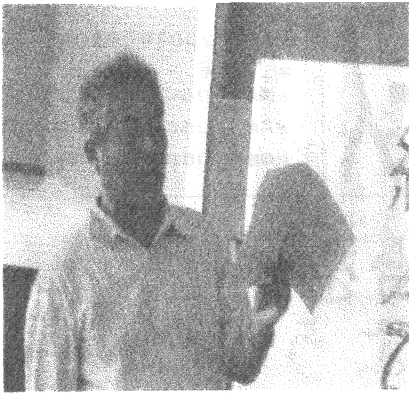
問題提起

安倍首相の本根

安倍首相は「憲法九条を変える」が本根である。しかし、マスコミ各社の世論調査によると「憲法改正」については「何らかの改正をする」が50%前後であるが、設問が「憲法九条」になると、「改正必要ない」が過半数を占める結果が出ています。安倍政権と国民の間にはずれが生じている。と話が始まりました。

改憲の準備が

改憲が日程化される手続法案国民投票法が強行成立した。現在中学二年生が3年後18才になる。最



短で3年後の2011年にも国民投票が実施できる。憲法改正に有利にはたらく欠陥法である「国民投票法」であるが、さらに「改正」を確実な体制にするため、教育関係3法

(①愛国心②教育統制③免許の更新制、副校長)③文部省の教育委員会への介入)や、集団的自衛権の政府解釈見直しへと強力な布陣を敷いて何が何でも押し通す体制をとっている。

安倍内閣は参議院選挙で戦後レジームからの脱却と述べ「改憲を争点にする」と強気の姿勢を取っている。自民党の中でも「タカ派」といわれる人たちが埋め尽くし(内閣18名中15名)体制を強化している。

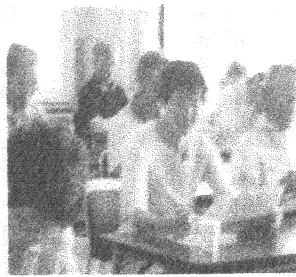
最大のねらいは憲法九条をかえ集団的自衛権の行使と述べつつ、その実現のため改憲派で固めてすすめている。

国民とのねじれ

しかし、政権内部でも矛盾をかかえ、経済界のなかでも経済同友会政治委員会委員長の丹羽氏、終身幹事の品川氏三井物産研究所長の寺島氏などが「九条は変えてはならない」「平和産業に徹して今

日の経済国家を作り上げてきた」と等と憲法九条の改正には異論を述べている。「米国一極支配という国際認識から脱却しなくてはならない」と自衛隊の幹部の中からも何人かの人たちが声を出してきている。安倍政権の中を「タカ派」で固め強

行突破したいという状況には必ずしも一致してない。世論調査でも国民とねじれがある。



九条変えるな!

憲法を生かせ!を本当に多数派にする運動の展望をかたりつつ、

「非正規雇用に正当な賃金と権利」「生きた人間らしさは譲らない」など人間らしく働くルールの確立をめざして運動を盛り上げる。憲法25条と28条の生存権・教育権・労働する権利など社会権を確立する運動。貧困・疾病を克服し教育・技術をかため、非軍事で紛争の解決、核の持込をなくし基地を縮小するなど九条を生かして平和への

機運をかためる。九条を変えては

いけないの一点で共同をする「九条の会」の活動を広げる。などの基本点を示しながら、「『九条の会』は、日本人の歴史のなかで市民社会という」「未来のためによき種をまこう、という運動だ」

「私達がいなくなった後に芽を出し、それが健やかに育っていくことに希望をつなぐ」と、呼びかけ人である澤地久枝さん(著書『発信する声』かもがわ出版)の言葉を紹介しながら息の長い運動を着々と進めることが重要だ。こんだんを大切に

幅広い運動を

最後に「農業プラス都会(通勤層)」という地域の特徴をつかみ、私たちがより多くの人たちと平和・教育・生活でも、肩肘張らずに懇談を大切にし、活動の巾を広げ運動を大きくしていこうと」など、佐織未来をひらく会への期待を述べ提起を終わりました。



国民平和行進津島く稲沢

2000人が参加

沿道カンパ4万円余

6月8日9時半、津島市の市長・議長の見送りを受けて、津島市役所を出発した平和行進団は、佐織公民館を目指して歩きだしました。佐織未来をひらく会の会員はもちろん、年金者組合や新婦人など、佐織のなじみの方々顔も見えまです。一雨来そうな空模様、歩くには日焼けを気にせずうってつけの日和と考え直します。色とりどりのリレー旗と沿道カンパ隊、隊列は一信号では渡れない長蛇の列。音楽の伴奏器が壊れていたらしく、もっぱらシンプレヒコールが主体。約一時間で、津島市役所から寺前の信号を経由し、ハッピーさおり前を右折して、佐織公民館に到着です。新婦人の方々やキャンデーやゼリーを配りながら、ねぎらいの声が掛かります。玄関脇では公民



館の職員の方々が冷たい麦茶の接待がありました。喉を潤し、一息入れた後、平和行進の歓迎・激励集会です。加藤敏彦愛西市議員の司会で、八木愛西市長から「広島への中学生派遣事業」をはじめとする非核平和宣言都市としての平和行政が、佐藤議長から原水爆禁止運動の大切さと共感が示されました。真野議員からは佐藤議長のお骨折りで22名の愛西市議会員の「すみやか署名」の取り組みが報告されました。通し行進者の竹田さんから感謝とお礼のあいさつがありました。ペナント募金の贈呈式の後、市長・議長も佐織庁舎まで一緒に歩き、稲沢市平和支所を目指して行進しました。

佐織年金者組合

第11回総会開く

全日本年金者組合佐織支部の総会が、6月10日佐織町方コミュニティセンターにて第11回定期総会が開催されました。総会では、この一年の活動報告と方針を討議し採択されました。記念行事でオーディオン演奏があり、食事を取りながらの和やかな総会でした。

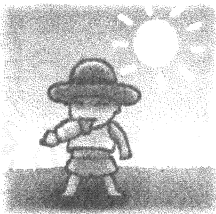
ラニーニャ現象

気象庁が今年にはラニーニャ現象が発生していると発表しました。ラニーニャ現象の年は梅雨の期間が短く、例年より遅く梅雨にはいつたにもかかわらず梅雨明けは早くなるそうです。猛暑の恐れがあるとも言われています。

猛暑となると心配なのは、高齢者の健康です。高齢になるとのどへの渇きを感じる力が弱くなるそうです。自覚のないまま脱水症状になり、時には命にかかわることも起きてしまいます。

最近は一入暮らしの人も増えているので一日一回一声

かけて、大事にならないようささえあつていきたい



聞いてきて

水不足も心配です。幸いこのあたりでは、風呂にも入れない、洗い物も洗濯も出来ないというようなひどい水不足はこれまで経験していませんが、水は日頃から大切に使用なくてはなりません。

そして、冷房の使い過ぎで地球の温暖化が進むことも心配です。いろいろな方法で室温を上げない工夫も研究されています。例えば家のまわりにつるになる草などを植える、眠るときは敷布団の上にごさを敷くなど自然の涼しさを追求する努力も大切だと思われ

ます。学生さんは図書館の学習室の利用なども有効でしょう。

私自身も暑さには弱いので、水分補給、栄養と睡眠に気を付けてこの夏をのりきりたいと思っています。

矢野和子

行事予定

●弾圧許さず言論・表現の自由を守る集会

6月25日(月) 18時30分
名古屋勤労会館小ホール
主催 救援会・自由法曹団他

●食事会(肉ジャガ、水餃子など)
6月26日(火) 10時
勝幡コミュニティ
会費 300円
主催 佐織年金者組合



●ウォーキング
瀬戸窯垣の小径
6月29日(金)
9時6分藤浪駅発
交通費片道1060円
主催 佐織年金者組合

●憲法改悪反対、イラク撤退、有事法制許さない昼休み宣伝
7月11日(水) 12時15分
金山総合駅南口
主催 安保破壊県実行委員会



●映画会(題名未定)
7月21日(土) 9時より
佐織公民館視聴覚室
会費 100円
主催 佐織年金者組合

●第2回「資本論」
第2・3巻講座
7月21日(土) 13時30分
愛知民主会館
主催 ほつとぶつくす新栄

本の紹介

心に残るとつておきの話

潮文社編集部編

が失敗し、人のかたくなな心に残れたとする。悪条件が重なれば明日はわが身となるのだ。そもそも欠点も弱点もない完璧な人間など、この世に存在しない。お互いに文句を言わず、相手の弱点を補い合って生きていく、これこそ”うるわしき人生ではないか”と私は思う。この本を読んで、私の心はひさしぶりになごんだ。と同時に、自分の心の狭さを痛感し、反省した。この本によって心の洗濯ができたことに感謝した一日だった。

佐折町・T I 生



この本の「萩の曲」本間麗子「…嫁は、礼儀作法は厳しく、料理がうまく、几帳面であり、おしゃれであり、そして美人であり…つまり女性として、ほとんど完璧に近い人間であった。その完璧さを私は可愛げのなさに置き換えて、嫁に背を向けたまま心を開いて話をしたことは一度もなかった。」そんな思いで過ごしていた矢先、嫁は孫一人残し、息子との結婚生活一年八ヶ月あまりで亡くなった。筆者は、嫁が亡くなってみてはじめて自分の心の狭さに気がつき、慟哭した。

以上、本の中の一編を紹介したが、「心に残る」とっておきの話：「第一集」には、こうした文章が58編ほど収められている。

”人のふりみて我がふり直せ”という言葉がある。人が病み、人



遅れていた入梅宣言が。しばらくはじとじとした日々が続きます。体調には気をつけたい。7月には参議院選挙が予定されています。国民の立場に立った議員を一人でも多く出したいものです。私も微力ながら努力しつつ、編集をしています。梅雨明けと嬉しいニュースを待ちながら。